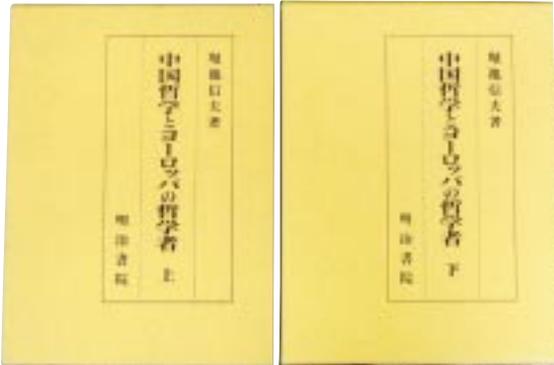




## 私の一冊

堀池信夫

『中国哲学とヨーロッパの哲学者 上・下』  
(明治書院 総1200頁)



本書は西洋の哲学者たちが中国の哲学・思想をどのように受容解釈してきたかを、13世紀から20世紀まで、通時的に研究したものである。要するに本書の内容はそれだけのものである。内容を詳しく知りたいという知的好奇心のある方は御自分で確かめられたい。

思想や哲学の研究は、このごろの学生諸君には漢も引っかけられないマイナーなものになっている。そして本書は、そうしたマイナーの中にあっても、なおマイナーな、いってみればマイナー中のマイナー、極度極端にマイナーな研究である。だからこれまで、こんな研究をやる人は世界中でまるでいなかった。世の中にそんな研究があったのか、みたいなものである。そんなマイナーなものに本学の(文科系の)学生諸君のように明るく前向きでメジャー志向の人々が振り向くことがあるのだろうか。まるで場違いである。

と、そんなことをいいつつも、今、私は本書の紹介文を書いている。やむを得ず書いているのだが、それはこのたび本書が図書館に配架されることになり、図書館の需めを断り切れなかったからである。しかし本書の性格は上来の通りであるから、これを紹介するという行為にはやはりかなり

の惨めさが伴う。加えて、この文章が学生諸君の目にとまっても、やはり本書の性格からして、明るく前向きの彼らからはたぶん何の反応もないだろう。そう思うとこの作文作業には、惨めさの上にむなしさが覆い被さる。

ただ、この配架がたんなる無駄に終わってしまうのは何だかもったいないように思う。だから内容など見なくともよい、万が一でよい、誰でもよいから、とにかく手にとってだけほしいと思う。それによって、配架の意味は十分にあったと思いたいのである。

(ほりいけ・のぶお 哲学・思想学系教授)

砂川有里子

日本語文型辞典

グループジャマシイ(くろしお出版)



外国人に日本語を教える人は、国語辞典のお世話になることが少なくない。しかし、国語辞典は元来日本人向けに作られたものなので、外国語として日本語を調べるのには限界がある。試しに「せっかく」という語を引いてみよう。辞典には「そのことのためにわざわざすること。ほねをおること」などの記述がある。これをそのまま外国

人に説明すると、「きのうはせっかく成田まで行きました。成田で友達に会いました」のような作文となって返ってくる。確かに説明したとおりの文ではある。

日本語を教えるのに国語辞典では間に合わない、参考書にも書いていない、それなら自分で作ってしまえ、と考えたのがこの発端である。そこで、ベテランの日本語教師7名に呼びかけ、知恵を出し合った。そして、これまでの辞典では調べようがない表現、「・・・が・・・なら・・・も・・・だ(親が親なら子も子だ)」「・・・でなくては・・・できない(トップでなくては満足できない)」などを積極的に取り込もう、用例はそれが用いられる状況がよく分かるものを考えようといったアイデアが出されていった。見出し語を決めるため、日本語教科書・新聞・シナリオなどを調査するところからはじめたので、思いの外時間がかかったが、編集会議のたびに新しい発見が

あって、楽しみながらの作業だった。

外国語として日本語を学ぶ人々にも使えるよう配慮したつもりだが、もとはといえば教師のために作ったものだから、学習者に役立つかどうか心配だった。しかし、刊行後、国内外の学習者から多くの励ましの言葉を頂戴した。しばらくして、北京外国語大学の徐一平教授が中国語版を作ろうと声を掛けてくださり、対訳版の『日本語句型辞典(簡体字)』と『日本語文型辞典(繁体字)』が刊行された。

この辞典でもう一つ思い出深いのは、日本語・日本文化学類卒業後くろしお出版に勤めたばかりの福西敏宏君が企画から刊行まで編集担当を務めてくれたことである。刊行間際は昼夜を問わずメールが飛び交い、休日を返上しての仕事だった。このときのお祭り騒ぎも今となっては懐かしい。

(すなかわ・ゆりこ 文芸・言語学系教授)



## 掲示板

拡大読書器を増設しました。

中央・体芸・医学の各図書館に、拡大読書器を設置しました。

これまでは中央図書館に1台のみでしたが、現在、中央図書館に3台、体芸図書館に1台、医学

図書館に2台設置されています。

「つくばね」読者の皆様が、実際に拡大読書器をお使いになることは少ないと思われませんが、周りに目の不自由な方がいらっしゃいましたら、ぜひ教えてさしあげてください。



## 編集室だよ

本年度の館報『つくばね』編集委員は、次の8名です。

主査：情報システム課長 松田寛

副主査：情報システム課課長補佐 平岡博

情報管理課：野口龍，福井啓介

情報サービス課：徳田聖子，斎藤未夏

後宮優子

情報システム課：真中孝行